



昭和大学
SHOWA University

一昭和大学歯科病院の理念一

患者本位の医療
先進的医療の推進
医療人の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151 (代表)

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

アルツハイマー新治療薬

医科歯科連携診療歯科 診療科長・准教授 マイヤース（田代）三恵

組織論学者リンダ・グラットンが、「LIFE SHIFT」中で「人生100年時代」という言葉を提言しています。人生100年時代とは、人間の寿命が伸びただけではなく、生き方や働き方に大きな変化が出てきたことを表現する言葉です。厚生労働省の人生100年構想会議でも、「高齢者から若者まで、全ての国民に活躍の場があり、全ての人が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくることが重要な課題」と報告しています。

人生100年時代を生き抜くためには、高齢者が生涯にわたり社会活動へ参加し「生きがいを感じる」ことがとても重要です。高齢者の健やかな生活を脅かすものとして、認知症が問題になっており、その患者数は約800万人に及ぶと言われています。

そのような中、日本の製薬会社エーザイとアメリカバイオジェンが開発したアルツハイマー病の治療薬であるレカネマブが米食品医薬品局に正式承認されました。これまでのアルツハイマー治療薬は一時的な改善効果であった一方、レカネマブは進行を

遅らせる効果がある初めての薬剤だということです。この薬剤が日本でも承認され、一般的に使用できるようになれば、私たちと認知症との付き合い方がより良い形に変わっていく可能性があり、「明るい人生100年時代」も夢ではなさそうです。

当科では、認知症患者さんの歯科診療も積極的に行なっています。認知症患者さんにご自身で口腔の健康を維持することが難しいために、口腔内環境が悪化していることが非常に多く見られます。また、治療中の協力が得られないなどで認知症患者さんの歯科治療をあきらめてしまっているご家族も多くいらっしゃると思います。当科では静脈内鎮静法（リラックスした状態で歯科治療を受けていただく）などを併用しながら治療を行なうことで認知症患者さんの「その人らしさ」を尊重しながら、口腔の健康を取り戻すお手伝いをしています。お困りの際は是非ご相談ください。



- P1 巻頭言 アルツハイマー新治療薬
- P2 診療科紹介 医科歯科連携診療歯科
- P3 新入職員ご挨拶
- P4 患者満足度調査結果報告、編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

診療科紹介：医科歯科連携診療歯科

医科歯科連携診療歯科 助教（診療科長補佐） 松井 庄平

医科歯科連携診療歯科は、医系総合大学である昭和大学の利点を最大限に生かし、全身疾患をお持ちで、歯科治療の際に何かしらの医学的な配慮を必要とする患者さんに対し、安心安全な治療を提供することに特化した診療科です。また、当科は昭和大学歯科病院の初診患者さんの窓口の役割も担っており、特定の診療科が指定されていない紹介状をお持ちの患者さんおよび紹介状をお持ちでない患者さんも拝見しています。診療依頼内容を確認し、問診を行い、口腔内診査を行った後、患者さんが最適な治療を受けられるように適切な診療科を決定します。

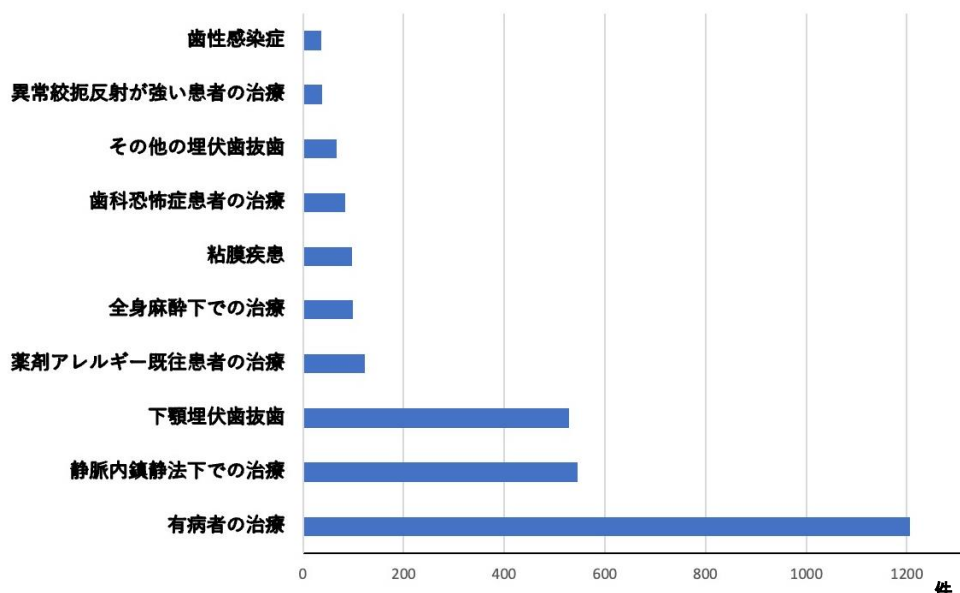
全身的なご病気のある患者さん（手術前後・抗がん剤治療中・緩和医療期など、がん治療中の周術期口腔機能管理、抗血栓薬・骨粗鬆症の薬をお飲みの方、薬剤アレルギーをお持ちの方など）に対しては、医科の主治医と連携を図りながら、むし歯治療から入れ歯、抜歯、小手術に至るまでの包括的な治療を行います。また、全身状態により歯科麻酔科と連携して、血圧や心電図をモニターしながら治療を行ったり、笑気麻酔、静脈内鎮静法、全身麻酔を併用した治療も行っております。歯科と聞いただけで冷や汗が出る方、口腔内に治療器具が入っただけで嘔気反射になってしまう方に対しても、同じく歯科麻酔科と連携して状況に応じ、静脈内鎮静法や全身麻酔などを併用して、快適に治療ができるよう体制を整えております。

当科は患者さんがよりスムーズに、スピーディーに最適・最良な医療が受けられるように地域連携・院内連携・病診連携を強化しています。



静脈内鎮静法下歯科治療

主な対象症例、管理方法（令和4年度）



医科歯科連携診療歯科スタッフ

新入職員ご挨拶

本年4月より矯正歯科助教（歯科）として入職いたしました鈴木涼夕風です。私は、歯科医師国家試験に合格後、当院補綴歯科、矯正歯科にて臨床研修を行いました。補綴治療・矯正治療により、食事で困りごとがある患者さんが「食事が楽しみになった」とおっしゃっていたり、笑顔に自信のなかった患者さんの笑顔が多くみられるようになったりと、とても充実した研修期間で、改めてかみ合わせの大切さを痛感いたしました。

私自身、口蓋裂患者であるため、食事にも笑顔にも苦慮しておりました。今後も補綴治療・矯正治療の連携が必要な患者さんや口唇・口蓋裂の患者さんに寄り添い、人生の中でたくさん笑顔になれるようお手伝いをさせていただければと思います。

矯正歯科 助教（歯科） 鈴木 涼夕風

本年4月より顎顔面口腔外科に助教（歯科）として入職いたしました、生川真希帆です。私は岡山大学歯学部を卒業後、昭和大学歯科病院にて臨床研修を行い、現在に至ります。

単に疾患を治療していくのではなく、治療をすることで患者さんの苦痛が少しでも改善し、日々の生活が過ごしやすくなること、更には当科で治療して良かったと思っていただけるよう努力をして参ります。そして、各診療科との連携を図るだけでなく地域医療機関の先生方とも連携をさせていただき、よりよい医療を提供できるよう最善を尽くしますので宜しくお願いいたします。

顎顔面口腔外科 助教（歯科） 生川 真希帆

2023年3月に本学大学院を修了し、4月1日より小児歯科の助教（歯科）として入職しました池田理沙と申します。

大学院では口腔機能発達不全症に関する研究を行っていました。小児期の口腔機能は日々成長し変化しています。その変化を踏まえた上で、将来問題になることを未然に防ぎ、健全な成長をサポートできるようお手伝いしたいと考えています。

また、臨床だけでなく、研究や教育に従事し、昭和大学の更なる発展に寄与できるよう精一杯努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

小児歯科 助教（歯科） 池田 理沙

今年度よりインプラント歯科に入職いたしました氷見開哉と申します。私はもしも自分の歯がなくなったらインプラント治療を受けたいと考え、専門的に学ぶために入局しました。

インプラント手術が怖いけどしっかりと噛みたい、きれいな歯にしたいなどの悩みを抱えてる患者さんがたくさん受診されます。その悩みを解決し最善の治療をするべく上級医とグループで診療しながら沢山の症例と日々向き合っております。大学病院の歯科医師として最先端の技術と知識を学び吸収し、患者さんが一番に求めていることを考え、常に謙虚さを忘れないことを心がけて診療して行きたいと思います。

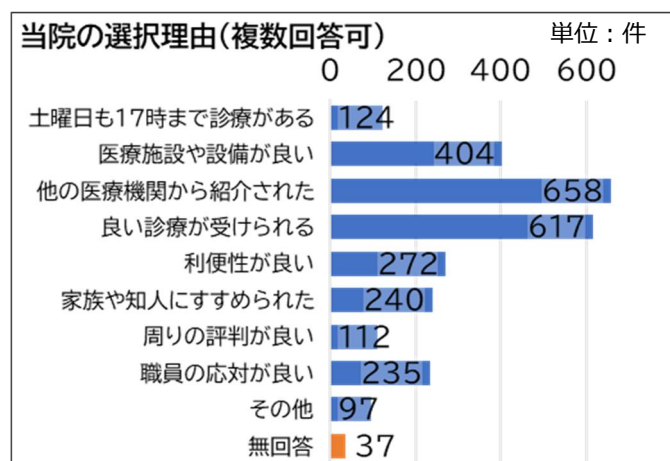
インプラント歯科 助教（歯科） 氷見 開哉

患者満足度調査結果報告

患者サービス向上委員会

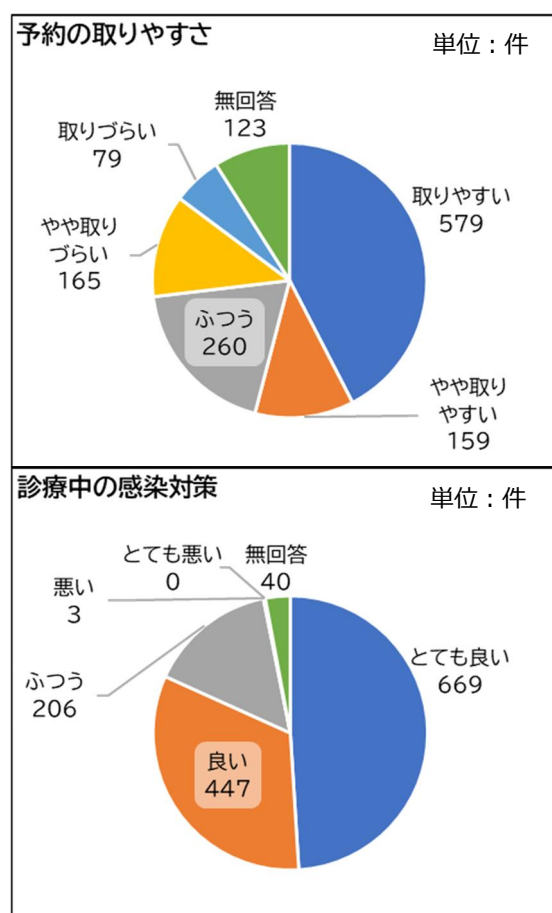
2023年1月28日～2月3日の間で患者満足度調査を実施し、アンケート回収枚数1,365枚のご回答をいただきました。調査にご協力いただきまして誠に有難うございました。

皆様よりいただきました貴重なご意見は、今後のサービスの向上に活かし、より一層安全かつ質の高い医療を目指して改善に努めて参ります。



総合的に100点満点中何点になりますか

総合評価	回答数	割合	平均点
2022年度	1,127	82.6%	87.1
2021年度	1,237	83.3%	88.0



【患者さんからのご意見記述(抜粋)】

- ・流石、歯科大学だと思いました。公正で安心してお願い出来ます。有難うございます。
〔回答〕お褒めの言葉をいただき誠にありがとうございます。今後も、皆さまに安心して治療を受けていただけるように、邁進して参ります。
- ・換気が充分に行われているのか、どのように換気しているのか分かりません。
〔回答〕外来では、空気の通り道を作るように窓を開けて、1時間おきに5～10分ほど換気を行っております。感染拡大防止のため、何卒ご理解ご協力の程お願い申し上げます。

編集後記

今年は梅雨前から驚くほどの暑さでありましたが、梅雨があけた7月は体温以上の暑さが続きぐったりする日々です。

この前、ニュースで大谷翔平が36号ホームランで世の中を賑わせておりました。もっと彼の活躍で、暑さを吹き飛ばしていただきたいです。(R.N)

